

アキノウナギツカミ

Persicaria sieboldii

タデ科

名前の由来

秋に開花し、茎にある刺を利用すればウナギを簡単につかめるということから名付けられた。漢字名：秋の鰻攫

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ
ウ

樹木

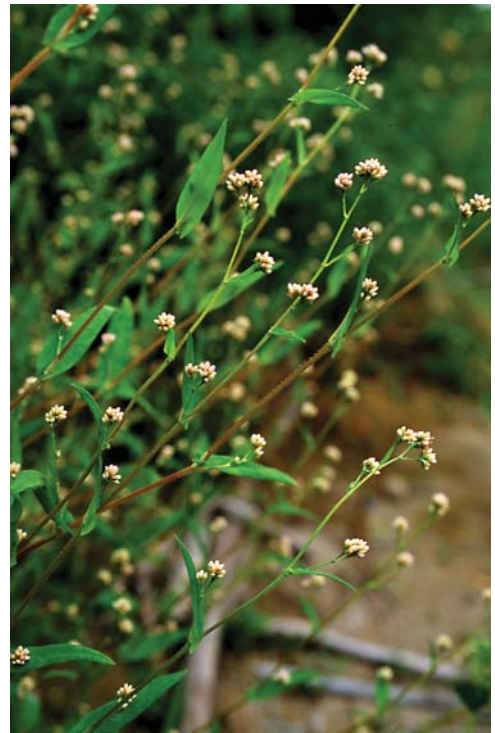
草花
(在来種)

草花
(外来種)

哺乳類

鳥類
(水辺)

鳥類
(草原・樹林)
ワシ・タカ



アキノウナギツカミ

形態的特徴

高さ30~100cmになる。茎や葉の柄、葉の裏面の葉脈には下向きの鋭いトゲがまばらにあり、刺さるとトゲが外れて皮膚や衣服に残る。葉は細長い矢尻形で、葉柄の基部に膜質で筒状に茎を取り囲む葉鞘がある。花は淡紅色で、花被は5裂し、小さな花が茎の先に集まって頭状につく。

類似種と見分け方

ミゾソバ、ヤノネグサ。

ミゾソバの葉は基部が左右に広がった三角状の鈍（ほこ）形になる。ヤノネグサの葉は基部が矢尻形を帯びているが、全体的に円みがあり、楕円形に近い。また、花や花柄に腺

毛（毛先が球状になっている毛）がある。この3種は時に混在して生えている。



アキノウナギツカミ。葉は細長い



類似種のミゾソバ。葉は幅広く三角形

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期				■								
結実期				■								

生育環境・分布

日当たりのよい、やや湿ったところに普通に見られる。しばしば群生する。

分布：国外分布は、シベリア・アムール・ウスリー・中国（東北）・台湾・朝鮮・樺太・千島。

国内分布は、北海道から九州。

北海道内分布は、全道。

十勝地方では、日当たりのよい、やや湿ったところに普通に見られる。しばしば群生する。



群生しているアキノウナギツカミ。日当たりの良いところ

生活史

開花時期：7～9月

開花までの年数：1年

寿命：1年草。

他生物との関わり

種は草食性の鳥類に食べられる。

花には虫が訪れる。



アキノウナギツカミ。出たばかりの葉

興味深い話

■花後、秋先に茎上のトゲが外れやすくなり、不用意に触れると刺さって皮膚上に一列になってトゲが残る。

■群生している場所では互いに茎が絡み合い、トゲを持ったバリケードのような状態になるため、その中を歩くのは

非常に困難である。



アキノウナギツカミ



アキノウナギツカミ

配慮事項

特になし

参考文献

「改訂版 牧野新日本植物圖鑑」牧野富太郎 北隆館 1989

「北海道植物図譜」滝田謙讓 自費出版 2001

「日本の野生植物 草本II」佐竹義輔・大井次三郎 他 平凡社 1982

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・森林)
鳥類
ワシ・タカ